

授 業 概 要

2025 年度

〔科目名〕 人間の尊厳と自立		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 喜納 卓也	
〔授業の回数〕 15 回		〔時間数〕〔単位〕 30 時間 2		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1 年前期					
〔授業の目的・ねらい〕 1. 「人間の理解」を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 2. 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 〔授業全体の内容の概要〕 目的・ねらいに準じて、主にパワーポイント資料を使用しながら講義を行う。適宜、映像資料、事例検討などを取り入れ、利用者の生活場面と結びつけられるような展開としたい。演習も行う。 〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 「人間の尊厳と自立」の意義、歴史的変遷、法的根拠の整理ができること。具体的な介護場面において、「人間の尊厳と自立」の概念を結びつけて対象者と向き合うことができるようになること。					
コマ	授業のテーマ	授業の内容			
1～7.	○オリエンテーション ○介護福祉士規定 ○人間の尊厳と人権・福祉理念 ○人権思想の潮流とその具現化 ○人権や尊厳に関する日本の諸規定 ○福祉理念の変遷 ○介護における権利擁護と人権尊重	○受講の心得、授業概要の説明、注意点など。 ○尊厳とは何か？ 個々人のイメージを共有し、本質をとらえる ○介護福祉士倫理基準（行動規範）・高齢者虐待防止法・身体拘束ゼロ手引き・求められる介護福祉士像・社会福祉士及び介護福祉士法の義務について内容の理解と自身の将来に向けた意識づけを図る。 ○人権思想がどのような経緯で誕生したか理解する。 ○人間の尊厳を、福祉の持つ意義から考える。そして生活支援の基本原則であることを学ぶ ○歴史的に尊厳と自立が問われてきた変遷を学ぶ。 ○生活場面から自立に関する基本的な考え方を学ぶ。 ○人間の尊厳と自立が、人間の幸せに深く関わっていることを学ぶ。 ○ハンセン病を例に、人権侵害の事実と過去に日本国憲法による侵害の事実について触れる。 ○ジェンダー・LGBT の人権			
8.	○ミニテスト	○理解度ミニテストの実施・解答解説、自己の学習への中間振り返りを行う。			
9～13.	○リビングウィル ○終末期 ○介護における尊厳保持と自立支援の理論 ・自立のあり方 ・自立と自律 ○自立と自立支援	○リビングウィルについて説明、「尊厳死」について、人生の最後をどう捉えどう向き合うかを考える。 ○事例検討 ○社会の仕組みにおいてどのように尊厳と自立が守られ、促進されているか学ぶ ○カレン事件について考察していく ○東日本大震災の介護ボランティア			

沖縄福祉保育専門学校

コマ	授業のテーマ	授業の内容
14.	○振り返り、まとめ	○これまでの授業内容を振り返り、国家試験問題等を含めながら試験対策を実施。
15.	○筆記試験	○終了評価（筆記試験）
使用テキスト・参考文献] [使用テキスト] 『最新・介護福祉士養成講座 1 第 2 版』 中央法規 「国試ナビ 2022」 中央法規 「2019/2020 年度版 社会保障制度指さしガイド」 日総研出版 「沖縄タイムス（新聞）」記事		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第20条第1項(認定基準)に基づく 2. 学則第21条第1項第2項(成績の評価と履修認定)に基づく 3. 評価規定…優:100点～80点、良:79点～70点 可:69点～60点、不可:59点以下 4. 評価方法…レポート・筆記試験

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 人間関係とコミュニケーション		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 小林 学美	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 1. 支援実践のために必要な人間とその生活環境や人間関係を理解する。 2. 他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 病院、障害者自立支援事業、教育委員会等で実務経験を持つ精神保健福祉士及び実習指導者、また認定心理士としての実務経験をもち、対人援助に必要な人間関係におけるコミュニケーションの重要性の理解と、技術を養成する科目である。 科学的な根拠に基づく人間及び人間の心理の理解を深める。社会福祉の役割を理解し、自立の支援と尊重を基礎としたコミュニケーションの資質を高めるために、自己覚知、他者理解等を深め、それらを基礎とした様々なコミュニケーションの基礎を身につける。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①理論に基づいたコミュニケーションと支援が行える。 ②アカウンタビリティ、他職種連携のチームの一員として情報共有の意義を理解し実践できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	人間関係の形成①			人間関係の基本的視点を発達と人間関係形成のプロセスから考え、人園関係を成立させるものについて理解する。	
2	人間関係の形成②			人間関係はラポール形成である。自分に向き合い自分と他者の関係性、個々の認知と価値観について考える。	
3	支援関係における人間関係の形成			一般的援助と専門的援助の違いを考え、支援関係における関係形成の必要性和職業倫理を踏まえた支援関係を理解する。	
4	対人関係とコミュニケーション			対人関係におけるコミュニケーションの意義を理解する。各コミュニケーション(言語・準言語・非言語)の概要を理解する。	
5	言語的コミュニケーション			言語的コミュニケーションが与える支援関係への影響を考えた適切な言語的コミュニケーションの習得を図る。(敬語・質問技法・喜ばれる言葉と嫌われる言葉・言葉に関するマナー・声かけなど)	
6	記述によるコミュニケーション			援助活動における記録の重要性を理解し、ロールプレイを通して記録もコミュニケーション手段であることを確認すると共に記録用途を確認する(説明責任、実施の根拠等)	
7	非言語的コミュニケーション			人の印象形成の大部分を占める非言語的コミュニケーションを理解する。演習を通して、様々な表情、目線、動作、姿勢、装い等を試し、支援関係に及ぼす影響と適切な表現を考える。	
8	非言語的コミュニケーション			物理的な対人距離や位置が心理的距離に及ぼす影響を理解し、演習を通して様々な発声法を試し適切な距離感を考える。	
9	準言語的コミュニケーション			声の強弱、長短、抑揚、発語の速さ等がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、演習を通して様々な発声法を試すなど、適切な方法を考える。	
10	トータルコミュニケーション			言語、準言語、非言語はトータルに相手に伝わることを理解し、受容的、共感的、傾聴の意義、留意点を確認して演習を通してその技法を練習する。	
11	傾聴・受容・共感 応答態度の技法・リフレーミング、明確化、要約			受容、共感、傾聴の技法を基に利用者とのコミュニケーションを、確かなものにするための応答態度の技法として繰り返し、明確化、要約の技法を練習する。	
12	面接の技法			生活場面における相談場面を設定して模擬面接を設定、コミュニケーション技法を統合的に学習する中で、利用者のニーズ把握、相談の重要性を学ぶ。	
13	機器やその他の方法を用いたコミュニケーション			ゲストスピーカーを招きコミュニケーション手段の一つとして、障害のレベルに応じて生活を支える様々な方法があることを学ぶ(パソコン・手話・点字・コミュニケーションボードなど)。	
14	チームケアにおけるコミュニケーション			チームケアの基礎となるものが円滑なコミュニケーションであることを理解する。同僚や多職種とのコミュニケーションは援助やチームの活性化にもつながることを理解する。	
15	科目まとめ			介護福祉士としての実践を支える価値と倫理、人間関係を築くコミュニケーション力の重要性を整理し本科目全般をまとめる	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席日数、授業態度、筆記試験、レポート等提出物	
〔参考文献〕 相手の気持ちをきちんと聞く技術 どうする? ～What Do We Do?～					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活と福祉		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲宗根政貴・喜納卓也	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 地域における生活とその支援についての基礎的な知識、および社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、テキスト:第 1 章～第 3 章の内容を中心とする。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、日本における社会保障制度について概観する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 地域における生活とその支援についての基礎的な知識、および社会保障の制度・施策についての基礎的な知識について、学生自身の生活と結び付け、生活者として理解する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	社会と生活のしくみ①			生活の基本機能について学ぶ	
2	社会と生活のしくみ②			ライフスタイルの変化について学ぶ	
3	社会と生活のしくみ③			家族の機能と役割、社会・組織の機能と役割について学ぶ	
4	社会と生活のしくみ④			地域、地域社会、地域社会における生活支援について学ぶ	
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①			地域福祉の発展について学ぶ	
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②			地域共生社会について学ぶ	
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③			地域包括ケアについて学ぶ	
8	社会保障制度①-1			社会保障の基本的な考え方について学ぶ	
9	社会保障制度①-2			社会保障の基本的な考え方について学ぶ	
10	社会保障制度②-1			日本の社会保障制度の発達について学ぶ	
11	社会保障制度②-2			日本の社会保障制度の発達について学ぶ	
12	社会保障制度③-1			日本の社会保障制度のしくみについて学ぶ	
13	社会保障制度③-2			日本の社会保障制度のしくみについて学ぶ	
14	社会保障制度④			現代社会と社会保障制度について学ぶ	
15	科目のまとめ			科目のまとめ:レポート等課題の提示:	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」[第2版] 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、課題レポート提出等を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 授業時、必要あれば提示する					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 社会の理解		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 富田 琢磨	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、また、個人情報保護や成年後見制度など権利擁護の制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 介護保険制度、障害者総合支援制度を社会保障、社会政策全体の体系の中で概説する。また諸制度の背景や理念についても理解が深められように関連させて説明する。 介護実践との関係性や、身近な生活の中で諸制度がどのように関係してくるのか、または利用者およびその家族がどのような場面において諸制度とのかかわりが生じてくるのか等について、学生がイメージ化できるよう演習等を織り交ぜながら説明する。分野によってはオムニバス形式で運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 介護保険制度の基礎的なしくみを理解している。 2. 障害者総合支援制度の基礎的なしくみを理解している。 3. 権利擁護や人権の尊重に関する諸制度の基礎的なしくみを理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	我が国の社会保障制度の概要			科目の意義と目的(ねらい)・学習ガイダンス	
2	介護保険制度創設の目的			高齢化と要介護状態の進行・制度創設の目的を理解する。	
3	介護保険制度のしくみ①			制度の概要・サービス利用までの流れを学ぶ。	
4	介護保険制度のしくみ②			介護サービスの内容・地域支援事業等を学ぶ。	
5	介護保険制度にかかわる組織とその役割 介護保険制度における専門職の役割			各機関の役割・制度を支える専門職の役割を理解する。	
6	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア			これまでの制度改正の変遷と地域包括ケアシステムを学ぶ。	
7	中間まとめ			理解度・知識定着を確認する。	
8	障害者の自立 障害者総合支援制度創設の目的と動向			障害と障害者の概念・制度改正の変遷と概要を学ぶ。	
9	障害者総合支援制度のしくみ①			制度の概要・サービス利用までの流れを理解する。	
10	障害者総合支援制度のしくみ②			障害福祉サービスの名称や内容等を学ぶ。	
11	障害者総合支援制度に関わる組織とその役割 障害者福祉施策のゆくえ			各機関の役割・制度を支える専門職の役割を理解する。 我が国・世界の障害者福祉制度の今後の課題を考察する。	
12	人々の権利を擁護する諸制度			虐待防止の諸制度・権利擁護の諸制度を学ぶ。	
13	生活をさえる諸制度のあらまし			生活保護制度、その原理原則・その他諸制度を学ぶ。	
14	保健医療に関わる法と諸施策 高齢者・障害者の住生活を支える諸制度			保健医療の知識と諸施策を学ぶ。	
15	科目のまとめ			必要な基礎知識が理解できているか、定着しているか総合評価を行うとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 社会人基礎教育		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 新垣 さとみ	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ビジネス能力検定ジョブパス 3 級資格取得に向けて授業内容を取り組みながら、働く意義や何故ビジネスマナーがありビジネスマナーの基本を身につけることの大切さを理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■講師が介護職員研修指導の実務経験を活かして授業を展開する科目である。 ジョブパス 3 級公式テキストに沿って授業をすすめながら試験問題に取り組み、わからない部分を確認しながら、社会人としての基本を理解していく。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 働く意義が働きながら自己成長につながることを理解する(目的と意識して実践することの大切さ)。 2. 職場実習を通して、ジョブパスで学んだビジネスマナーや仕事への取り組む基本が結びつくことを理解することができる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	科目のねらい・目的共有		授業初日、講師自己紹介・受講生とコミュニケーションを取りながらジョブパスの目的やねらいを共有。		
2	キャリアと仕事へのアプローチについて		働く意識、仕事への取り組み方を理解する。(ワーク、演習問題)		
3	仕事の基本となる 8 つの意識について		「8つの意識」一つひとつが何故大切なのかを理解する。(演習問題)		
4	コミュニケーションとビジネスマナーの基本		コミュニケーション理論や印象の法則、人間関係の5原則を学び理解する。(演習問題)		
5	指示の受け方と報・連・相		指示を受けるポイント、報告・連絡の仕方、連絡・相談の仕方、受け方のポイントを学ぶ。(ワーク、演習問題)		
6	話し方と聞き方のポイント		ビジネスにふさわしい話し方や言葉遣いの基本、聞き方のポイントを学ぶ。(ワーク、演習問題)		
7	来客対応と訪問の基本マナーとつき合いについて		来客対応のマナー、名刺交換のマナー、訪問のマナー、会食のマナーの基本を理解する。(演習問題)		
8	仕事への取り組み方		PDCAサイクル、スケジュール管理のポイント、Eメールのマナーを理解する。(演習問題)		
9	ビジネス文書の基本		ビジネス文書の種類や役割・Eメールの書き方を理解する。(演習問題)		
10	電話応対		電話応対の重要性、電話の受け方・かけ方の基本を学ぶ。(ロールプレイ・演習問題)		
11	統計データの読み方・まとめ方		表とグラフの役割と特徴、読み方まとめ方のポイントを理解する。(演習問題)		
12	情報収集とメディアの活用		情報収集のポイント、様々な情報源、新聞の読み方などのポイントを理解する。(演習問題)		
13	会社を取り巻く環境と経済の基本		日本経済の基本構造と変化・経済環境の変化と求められる人材の変化(演習問題)		
14	総合演習(過去問)		過去試験問題4回&解答		
15			※毎時、質疑応答の時間を設け確認を行う。		
	評価テスト実施				
〔使用テキスト・参考文献〕 「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」 日本能力協会マネジメントセンター			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート、発表内容、授業態度等を総合的に評価する。		
〔参考文献〕 自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 障害のあるこどもの介護		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲間 優子	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 1. こどもの発達について理解する。 2. 様々な障害特性を知り、あそびを通して支援方法を学ぶ。 3. 保護者支援及び関連機関との連携について理解を深める。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■保育士として実務経験のある教員が、その経験を活かして、こどもの発達及び障害のあるこどもの特性や支援を概説する科目である。 障害児・者施設実習へ備えるためにも、遊びやコミュニケーション技法など、具体的な演習等を取り入れた授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 障害を理解し愛情をもって支援を行えるよう、また保護者への支援の大切さを理解できている。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	児童とは こどもの発達の特徴とは		・児童福祉法、児童憲章、こどもの権利条約にみる こどもの最善の利益 保育士の倫理綱領 ・定型発達の理解 ー乳幼児期のこどもの発達の特徴		
2	こどもの発達とあそび		・保育所における保育の様子 ーDVD ・こどもはあそびを通して学び、五感を使って発達する ・おもちゃを使い、あそびの楽しさを体験する。		
3	障害のあるこどもの理解		・障害を持ったこどもの保育を豊かに創り出すために ・気になる子の背景にあるもの ・援助(保育)のポイント		
4	障害について		・障害の特徴・個別的支援の方法を学ぶ。 DVD「僕が飛び跳ねる理由」 等		
5	障害のあるこどもの発達と生活支援①		・日常生活支援、学習支援、保育の五領域、あそび ー紙あそび・布あそびー		
6	障害のあるこどもの発達と生活支援②		・日常生活支援、学習支援、保育の五領域、あそび ーエプロンシアター・絵本の読み聞かせー 実演		
7	医療との関わり		医療知識の重要性と多職種・機関との連携		
8	家族の思い・こどもの想いを理解する		・障害のあるこどもとライフコース ・障害のあるこどもとその保護者への支援等 DVD ・「がんばれどもこ」グループワーク		
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:課題レポート、演習発表等を総合的に評価する。		
〔参考文献〕 自主作成資料・参考資料					

授業概要

【2025年度】

[科目名]		[授業の種類]		[授業担当者]	
介護の基本 I		講義・演習		金城 享子	
[授業の回数]	[時間数]	[配当学科]	[配当学年・時間]		
15回	30時間	ヒューマン介護福祉科	I 学年		
[授業の目的・ねらい]					
介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習する					
[授業全体の内容の概要]					
介護老人保健施設で介護福祉士としての実務経験を通し専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹と介護の考え方である「尊厳の保持」や「自立支援」について学習し介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について考えてゆく科目。					
介護の歴史から介護福祉士を取り巻く状況や介護福祉士としての役割と機能を理解し介護を必要とする人の多様性を学び「尊厳の保持」「自立支援」の視点と意義を学ぶ。介護を必要とする人の生活を課題を具体的にイメージできることを目的に演習も取り入れ理解を促進する					
[授業終了時達成課題]					
1. 利用者ができるだけなじみのある環境で生活が送れるよう個々の生活の多様性を理解できている					
2. 尊厳の保持と自立支援の意義を理解できている					
3. 介護福祉士の専門性と多職種協働の意味を理解できている					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		授業方法
1	学習ガイダンス		科目の意義と目的を理解する		講義
2	介護の成り立ち		専門職による介護が誕生した経緯を理解する		講義
3	介護福祉を取り巻く状況		老人福祉法が成立した社会的背景を理解する		講義
4	介護福祉の歴史		老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策を学ぶ		講義
5	介護保制度		介護保険制度の導入の背景から基本的な考え方を学ぶ		講義
6	介護福祉の基本理念		介護福祉の基本理念を理解する		講義
7	ICF の考え方		ICF モデルと用語の定義		講義
8	尊厳を支える介護		尊厳を支える介護・ノーマライゼーション		講義
9	身体拘束と虐待防止		介護を実践する上での禁止規定を理解する		講義
10	社会福祉士及び介護福祉士法		法の制定および改正法の成立と義務規定を理解する		講義
11	介護福祉士の活動の場と役割		終末期・看取り・災害時の介護福祉士の役割を理解する		講義
12	介護福祉士の役割と機能		地域包括ケアシステム等の介護福祉士の役割の理解		講義
13	介護予防		介護予防が求められる背景		講義
14	介護福祉士の養成教育の始まり		介護ニーズの変化と求められる役割を理解する		講義
15	介護福祉士の役割の期待		チームリーダーとしての介護福祉士への期待		講義

1 6	介護福祉士を支える団体	職能団体や養成施設の働きを理解する	講義
1 7	高齢者の理解	高齢者の特徴と認知症の基礎知識を学ぶ	講義
1 8	介護福祉士の倫理	介護福祉者がもつべき職業倫理を理解する	講義
1 9	倫理的対応が必要な事例	倫理的判断が必要な場面から対応法を学ぶ	演習
2 0	介護福祉士に求められる職業倫理	普遍的な倫理判断の視点を学ぶ	講義
2 1	日本介護福祉士会の倫理綱領	行動規範を例に介護福祉の専門性と倫理を理解する	講義
2 2	自立に向けた介護	自立支援の具体的な考え方を理解する	講義
2 3	意思決定支援	利用者の意思決定を支える方法について学ぶ	講義
2 4	介護における ICF の捉え方	ICF における生活機能と各因子との相互作用を理解する	講義
2 5	自立支援とリハビリテーション	リハビリテーションの基本的な考え方を理解する	講義
2 6	リハビリテーションの実際	リハビリテーションの体系と専門性を理解する	講義
2 7	自立支援と介護予防	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する	講義
2 8	高齢者の身体特性と介護予防	高齢者の特性を理解し介護予防の実践を学ぶ	
2 9	介護予防における介護福祉士 総合試験	介護予防の中で介護福祉士の役割を理解する 介護の基本 1 第 1 章・第 2 章・第 3 章・第 4 章	講義
3 0	学習の振り返り	再度学習を理解する	
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」中央法規出版 第 1 章・第 2 章・ 第 3 章・第 4 章		[単位認定の方法及び基準] 1. 学則 23 条 1 項（認定基準）に基づく 2. 学則 24 条 1 項（成績の評価）に基づく 3. 評価規定：優（A）100 点～80 点 良（B）79 点～70 点 可（C）69 点～60 点 4. 評価方法：出席・授業への取り組み姿勢 20％ 科目終了筆記試験 50％ 課題レポート提出 30％ を総合的に評価する	

授 業 概 要

【2025年度】

[科目名] 介護の基本Ⅱ		[授業の種類] 講義		[授業担当者] 大城 修	
[授業の回数] 30回		[時間数] 60時間（4単位）		[配当学科] ヒューマン介護福祉科	
[配当学年・時期] 1年次 前期					
[授業の目的・ねらい] 1・介護福祉士の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 2・介護福祉士としての専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 1・介護施設で介護福祉士、在宅で介護支援専門員として30年以上の実務経験を活かし、福祉現場での体験や状況についても講話し理解を養う。 2・介護を必要とする人の理解や生活を支える仕組み、協働する職種の役割と機能について学ぶ。					
[授業終了時達成課題（到達目標）] 1・介護を必要とする人の個性に対応するための生活の多様性や社会との関りについて理解できる。 2・フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について学びを深めることができる。 3・多職種協働を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を理解しさらに介護福祉士法に関する諸規定等について 説明することができる。					
コマ数	授業テーマ		授業の内容		
1	科目のねらい・学習ガイダンス		科目の意義と目的（ねらい）を理解する。		
2	介護を必要とする人の理解 （私たちの生活の理解）		私たちの生活は「時間」「空間」「生活のリズム」が相互に関連し構成されていることを学ぶ。		
私たちの生活を構成する重要な要素について理解する。					
私たちにとって、生活とはどのような特性をもっているかを理解する。					
5	介護を必要とする人の理解 （介護福祉を必要とする人たちの暮らし）		介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解する。		
6			介護福祉職のかかわる高齢者及び障害者の事例を学ぶ。		
7	介護を必要とする人の理解 （「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解）		その人らしさや生活ニーズ、その多様性について理解する。		
8	介護を必要とする人の理解 （生活のしづらさの理解とその支援）		私たち自身の生活のしづらさの視点について理解する。		
介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について理解する。					
家族介護者の支援について理解する。					
11	介護を必要とする人の理解		グループ演習を通し、視点の確認と介護を必要とする人の理解について振り返る。		
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ （利用者の生活を支えるしくみ）		地域共生社会について理解する		
13			地域包括ケアシステムについて理解する		
14	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ （生活を支えるフォーマルサービス「社会的サービス」とは）		高齢者を支えるフォーマルサービスを理解する。（介護保険制度におけるサービスの種類）		
障害者を支えるフォーマルサービスを理解する。（障害者のためのフォーマルサービスの概要）					
フォーマルサービスにおける介護福祉士の支援の視点を理解する。					
17	（生活を支えるインフォーマルサービス「私的サービス」とは）		フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係について学ぶ。		
[使用テキスト] ・最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ、中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 1・学則第23条1項（認定基準）に基づく 2・学則第24条1項（成績の評価）に基づく 3・評価規定：優（A）100～80点・良（B）79点～70点・可（C）69点～60点 4・評価方法：出席・授業への取り組み姿勢10%、科目終了筆記試験70%、課題 レポート提出20%を総合的に評価する		
[参考文献] ・自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

[科目名] 介護の基本Ⅱ		[授業の種類] 講義		[授業担当者] 大城 修	
[授業の回数] 30回		[時間数] 60時間（4単位）		[配当学科] ヒューマン介護福祉科	
[配当学年・時期] 1年次 前期					
[授業の目的・ねらい] 1・介護福祉士の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 2・介護福祉士としての専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 1・介護施設で介護福祉士、在宅で介護支援専門員として30年以上の実務経験を活かし、福祉現場での体験や状況についても講話し理解を養う。 2・介護を必要とする人の理解や生活を支える仕組み、協働する職種の役割と機能について学ぶ。					
[授業終了時達成課題（到達目標）] 1・介護を必要とする人の個性に対応するための生活の多様性や社会との関りについて理解できる。 2・フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について学びを深めることができる。 3・多職種協働を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を理解しさらに介護福祉士法に関する諸規定等について 説明することができる。					
コマ数	授業テーマ			授業の内容	
18	〈生活を支えるインフォーマルサービス「私的サービス」とは〉			一般的に想定されるインフォーマルサービスについて学ぶ。	
19	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ （地域連携）			地域連携の意義と目的について学ぶ。	
20				地域福祉にかかわる組織・団体及びにない手について学ぶ。	
21	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ			グループ演習を通し、視点の確認と介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて振り返る。	
22	協働する多職種の機能と役割 （多職種連携・協働に求められる基本的な能力）			多職種連携・協働の必要性について学ぶ。	
23				多職種連携・協働の目的と効果について学ぶ。	
24	協働する多職種の機能と役割 （多職種連携・協働に求められる基本的な能力）			介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義とコミュニケーション能力について学ぶ。	
25				問題解決に対する多職種のかかわりには、多様な視点と受容が必要であることを理解する。	
26	協働する多職種の機能と役割 （保険・医療・福祉職の役割と機能）			介護福祉職と協働するさまざまな職種について学ぶ。	
27				多職種協働にかかわる専門職の役割と機能を理解する。	
28	協働する多職種の機能と役割 （多職種連携・協働の実践）			専門職連携実践（IPW）の内容と実践タイプを理解する。	
29				介護福祉職からみる連携の実態から専門性の理解及び介護福祉職主導の連携の実態を学ぶ。	
	科目筆記試験			科目試験（筆記試験）	
30	科目試験の振り返り・科目のまとめ			科目試験の採点と解説を行い、終了後の目標課題（到達目標）を振り返る。	
[使用テキスト] ・最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ、中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 1・学則第23条1項（認定基準）に基づく 2・学則第24条1項（成績の評価）に基づく 3・評価規定：優（A）100～80点・良（B）79点～70点・可（C）69点～60点 4・評価方法：出席・授業への取り組み姿勢10%、科目終了筆記試験70%、課題レポート提出20%を総合的に評価する。	
[参考文献] ・自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 コミュニケーション技術		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 小林 学美	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 1、介護等支援を必要とする人の理解や、援助関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 2、利用者や利用者家族、多職種連携におけるコミュニケーション技術を身につけ応用するための能力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 病院、障害者自立支援事業、教育委員会等で実務経験を持つ精神保健福祉士及び実習指導者、また認定心理士としての実務経験をもとに対人援助に必要な人間関係におけるコミュニケーションの重要性の理解と、技術を養成する科目である。 聴く技術を中心とした支援におけるコミュニケーションの意義を理解し、情報・状態に応じたコミュニケーションの技術を身につける。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 様々な場面においての適切なコミュニケーションが行え、記録や会議の意義を理解し実際場面で実践できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	介護におけるコミュニケーションの基本①			円滑なコミュニケーションの意義と目的を理解する。	
2	介護におけるコミュニケーションの基本②			援助関係におけるコミュニケーションの基礎を理解する。 傾聴・受容・共感の姿勢について理解し、実践を身につける。	
3	介護におけるコミュニケーションの対象理解			尊重と配慮を理解する。当事者理解と家族理解、多職種連携について理解する。	
4	コミュニケーションの基本技術①			傾聴・受容・共感の理解と応用。	
5	コミュニケーションの基本技術②			言語・非言語コミュニケーション等の技術を身につける。	
6	コミュニケーションの基本技術③			目的別コミュニケーション・集団におけるコミュニケーションの理解と応用を身につける。	
7	対象者に応じたコミュニケーション①			コミュニケーション障害について機能的側面と環境要因を理解する。	
8	対象者に応じたコミュニケーション②			視覚障害・聴覚障害・構音障害のある人とのコミュニケーションと配慮を理解する。 認知症のある人とのコミュニケーションと配慮を理解する。	
9	対象者に応じたコミュニケーション③			精神障害、発達障害のある人とのコミュニケーションと配慮を理解する。	
10	対象者に応じたコミュニケーション④			ゲストスピーカーを招き、失語症、重度心身障害、知的障害のある人等とのコミュニケーションと配慮を理解する。	
11	家族とのコミュニケーション①			家族の定義と心理を理解する。	
12	家族とのコミュニケーション②			家族との関係づくりを身につける。	
13	家族とのコミュニケーション③			家族への助言・指導・調整の技術を身につける。	
14	家族とのコミュニケーション④			様々な事例を通して家族関係の理解をする。	
15	家族とのコミュニケーション⑤			家族の介護ストレスを理解し対応方法・技術を身につける。	
16	チームにおけるコミュニケーション①			SSTを通して集団の中でのコミュニケーション技術を身につける。	
17	チームにおけるコミュニケーション②			SSTを通して多職種連携・協働のコミュニケーション技術を身につける。	
18	チームにおけるコミュニケーション③			介護実践の場におけるチームのコミュニケーション技術を身につける。	
19	報告・連絡・相談の技術①			報告・連絡・相談の意義を理解する。	

20	報告・連絡・相談の技術②	報告・連絡・相談の応用技術を身につける。
21	記録の技術①	記録の意義と目的を理解する。
22	記録の技術②	記録・報告書等の実際からわかることを理解する。
23	チーム連携における情報共有について	チームにおける情報共有の意義を理解し、実践技術を身につける。
24	チーム連携における会議について①	連携会議の目的と役割を理解する。
25	チーム連携における会議について②	チーム連携の会議進行と参加の心得を理解し、応用技術を身につける。
26	事例検討に関する技術	事例検討会の意義と役割を理解する。
27	情報管理と情報の活用	倫理に基づいた情報の取り扱いや管理、活用方法を理解する。
28	総合演習①	様々な場面におけるコミュニケーション技術応用のための演習を行う。
29	総合演習②	様々な場面におけるコミュのケーション技術応用のための演習と振り返りを行う。
30	科目まとめ	介護福祉士としての実践を支える価値と倫理、人間関係を築くコミュニケーション力の重要性を整理し本科目全般をまとめる
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」 中央法規出版		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席日数、授業態度、筆記試験、課題レポート等提出物を総合的に評価する。
〔参考文献〕		

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術 I		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 1.介護サービスを利用する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2.自立・自律支援の観点、残存能力の活用・潜在能力を引き出す介護実践ができる能力を養う。 3.利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4.多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5.リスクマネジメント等利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■介護福祉士としての実務経験のある教員が、その経験を活かして、演習室等での実地指導を通じ、衣食住から生活支援を捉える視点を養成する科目である。 介護演習室での演習、調べ学習(個人・グループ)、衣食住から生活支援を考える。特に調理の具体的な学習に関しては、専門講師を招聘するオムニバス形式で運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①生活の定義を理解し衣食住からみた生活支援を考えることが出来る。 ②福祉用具を知り、使用目的や使用方法等を考えることが出来る。 ③レクリエーションについて考えていける。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1～4	「生活支援とは何か」 生活を理解する視点 生活支援の基本的な考え方 生活支援と介護予防 生活支援とリハビリテーション			①「生活」を理解する視点をもつ 学生個々の現在と介護が必要になった場合を考える。 他者の内容を聞くことにより、「生活の違い(価値観・生活習慣)」を知り「いろいろな生活があること」を理解する。 個々の違い、地域の違い、国の違いの事例を知る。 ②生活支援を担うにあたり「利用者主体」を理解する。 ③生活支援の必要な人を理解する。 ④介護予防とレクリエーション活動の役割について考える ⑤チームアプローチを理解する。	
5 ↓ 13	「生活支援と福祉用具の活用」			①福祉用具とは何か ②福祉機器展へ参加し、新しい福祉機器へ触れる 学外授業:沖縄県社会福祉センター ③リフト、マルチグロブ、スライディングボードが使用できる	
14 ↓ 16	「居住環境の整備」 居住環境の整備と目的 安心で快適な生活の場づくり			①人が安心して快適に暮らすために必要な環境の整備とは何かを考える。 ②高齢者や障害のある人の住まいの多様化について考える。 ③環境整備の工夫について考える。	
17 ↓ 20	「家庭生活にかかわる基本知識」 家庭生活の理解 家庭生活の営み			①家庭の中で営まれる生活の構成要素を確認する ②家計における収入と支出について考える ③被服生活の基本知識を養う ④被服の洗濯・保管について知る ⑤家事の意義について理解する ⑥洗濯・掃除・裁縫ができる	
21 ↓ 30	「家事の介護」 家事支援の意義と目的 家事支援における介護技術			□オムニバス式 ①食生活の基本知識を養う ②食品衛生(食中毒)について学ぶ ③調理の支援について学ぶ ④調理実習 調理～盛り付け～片付けができる とりみ剤の使用方法が理解できる 調理法による食材の硬さが理解できる	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術 I」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席 45%、筆記試験 25%、課題レポート等提出物等 30%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術 II		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 長嶺 規恵	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士の専門性である「生活支援技術」を用いて安全に援助できる技術や知識を習得する。また、対象者がどのような状態であっても、尊厳保持の観点を尊重し、かつ、潜在能力への働きかけや見守ることも含めた適切な自立(自律)支援に基づき、対象者が求めている生活の実現を目指していく姿勢を育成する。					
〔授業全体の内容の概要〕 1. 利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、あらゆる介護場面における生活支援技術を学生が適切に理解できるよう概説するとともに、演習を通じて技術習得を図る。 2. 生活支援技術に活かせるよう各科目領域の関連性、位置づけや意義を捉えることができるよう授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 尊厳や ICF の視点に基づいたアセスメントの基礎を理解し、潜在能力を活かした生活支援技術の意義を理解している。 2. 利用者の状態や心身の状況に応じた生活支援技術の基本姿勢を理解している。 3. 実習 I (通所・施設)へ効果的に取り組むことができるよう、基礎的な知識や技術を整えている。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	生活支援技術の意義と目的		科目の意義と目的(ねらい)・生活支援技術の意義と介護の専門性		
2	アセスメント①		観察及びアセスメントの意味・アセスメントのプロセス		
3	アセスメント②		ICF の考え方とアセスメント		
4	移動の介護①		ボディメカニクス・移動の意義と目的		
5	移動の介護②		移動移乗における介護技術①基本的理解		
6	移動の介護③		移動移乗における介護技術④車いす介助		
7	睡眠における介護技術①		自立を支える睡眠の介護とアセスメント		
8	睡眠における介護技術②		安眠の介助の基本的理解・ベッドメイキング①		
9	睡眠における介護技術③		安眠の介助の基本的理解・ベッドメイキング②		
10	移動の介護④		移動移乗における介護技術③安楽な体位の保持		
11	移動の介護⑤		移動移乗における介護技術②体位変換		
12	移動の介護⑥		移動移乗における介護技術③安楽な体位の保持		
13	移動の介護⑦		移動移乗における介護技術⑥道具用具		
14	移動の介護⑧		移動移乗における介護技術⑦歩行の介助		
15	移動の介護⑨		移動移乗における介護技術⑧歩行の介助		
16	移動の介護⑩		移動の介護における他職種の役割と協働		
17	食事の介護①		食事の意義と目的		
18	食事の介護②		食事における介護技術①リスク管理		
19	食事の介護③		食事における介護技術②食事の介助		
20	食事の介護④		食事における介護技術③食事の介助		
21	食事の介護⑤		食事における介護技術④道具・用具		
22	食事の介護⑥		食事の介護における他職種の役割と連携		
23	身じたくの介護①		身じたくの意義と目的		
24	身じたくの介護②		身じたくにおけるアセスメント		
25	身じたくの介護③		身じたくにおける介護技術①整容		
26	身じたくの介護④		身じたくにおける介護技術②口腔ケア		
27	身じたくの介護⑤		身じたくにおける介護技術③衣服の着脱		
28	身じたくの介護⑥		身じたくにおける介護技術④衣服の着脱・他職種協働		
29	科目のまとめ・総合評価①		科目のまとめ及び総合評価(筆記)を行う。		
30	科目のまとめ・総合評価②		科目のまとめ及び総合評価(実技)を行う。		
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術 II」 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術 I」 中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物を総合的に評価する。		
〔参考文献〕 自主制作資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術Ⅲ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 上原 誠	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士の専門性である「生活支援技術」を用いて安全に援助できる技術や知識を習得する。また、対象者がどのような状態であっても、尊厳保持の観点を尊重し、かつ、潜在能力への働きかけや見守ることも含めた適切な自立支援に基づき、対象者が求めている生活の実現を目指していく姿勢を育成する。					
〔授業全体の内容の概要〕 1. 利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、あらゆる介護場面における生活支援技術を学生が適切に理解できるよう概説するとともに、演習を通じて技術習得を図る。 2. 生活支援技術に活かせるよう各科目領域の関連性、位置づけや意義を捉えることができるよう授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 尊厳やICFの視点に基づいたアセスメントの基礎を理解し、潜在能力を活かした生活支援技術の意義を理解している。 2. 利用者の状態や心身の状況に応じた生活支援技術の基本姿勢を理解している。 3. 実習Ⅰ(通所・施設)へ効果的に取り組むことができるよう、基礎的な知識や技術を整えている。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	生活支援技術の意義と目的			科目の意義と目的(ねらい)	
2	生活支援技術の意義と目的			生活支援技術の意義と介護の専門性	
3	入浴・清潔保持の介護①			入浴・清潔保持の意義と目的	
4	入浴・清潔保持の介護②			事故の防止・異常時の対応・アセスメントの視点	
5	入浴・清潔保持の介護③			部分浴(足浴)の介助	
6	入浴・清潔保持の介護④			〃	
7	入浴・清潔保持の介護⑤			入浴の介助(チェアー浴等)	
8	入浴・清潔保持の介護⑥			〃	
9	入浴・清潔保持の介護⑦			清潔保持の介助	
10	入浴・清潔保持の介護⑧			清潔保持の介助(ケリーハット 等)	
11	入浴・清潔保持の介護⑨			入浴の介助(ストレッチャー 等)	
12	入浴・清潔保持の介護⑩			入浴の介助(ストレッチャー 等)	
13	入浴・清潔保持の介護⑪			入浴清潔保持のための道具・用具	
14	入浴・清潔保持の介護⑫			入浴・清潔保持における他職種の役割と協働	
15	排泄の介護①			排泄の意義と目的	
16	排泄の介護②			排泄の意義とコントロール・移乗、移動の確認。	
17	排泄の介護③			トイレでの排泄介助	
18	排泄の介護④			〃	
19	排泄の介護⑤			ポータブルトイレでの排泄介助	
20	排泄の介護⑥			〃	
21	排泄の介護⑦			ベッド上での排泄介助(尿器・差し込み便器 等)	
22	排泄の介護⑧			〃	
23	排泄の介護⑨			頻尿・下痢・失禁等への対応	
24	排泄の介護⑩			他職種の役割と協働・まとめ	
25	睡眠の介護①			睡眠の意義と目的	
26	睡眠の介護②			睡眠における介護技術	
27	終末期の介護①			終末期の意義と介護の役割	
28	終末期の介護②			終末期における介護	
29	科目のまとめ・総合評価①			科目のまとめ及び総合評価(実技試験)を行う。	
30	科目のまとめ・総合評価②			科目のまとめ及び総合評価(筆記試験)を行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法: 実技試験、筆記試験を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 「実技試験のチェックポイント」 中央法規出版					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護過程		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 上原 誠	
〔授業の回数〕 30 コマ		〔時間数〕 45 時間		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1 年・前期					
〔領域の目的：介護〕 1.介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2.介護を实践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 3.本人、家族等との関係性の構築やチームケアを实践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 4.対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 5.介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 6.各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。					
〔教育内容の狙い：介護過程〕 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習熟する学習とする。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		授業方法
1	介護過程の意義目的		専門性と介護過程のプロセスを考える		講義・演習
2	介護過程の意義目的		個別性・尊厳について考える		講義・演習
3	介護過程の全体像		アセスメント（情報収集、情報の解釈、関連付け、統合化）の重要性を考える		講義・演習
4	介護過程の全体像		介護計画の立案、介護の実施、評価の流れを理解する		講義・演習
5	事例検討・事例研究		事例研究の目的を理解する		講義・演習
6	倫理的な配慮・介護福祉分野で使用する「計画」		個人情報の穂保護、倫理的配慮について理解する		講義・演習
7	介護過程の展開の理解		介護過程のプロセスを理解する		講義・演習
8	介護過程の展開の理解		介護過程のプロセスを理解する		講義・演習
9	情報収集の意義		意図的な観察と生活の全体像を考える		講義・演習
10	情報収集の意義		利用者を知ることを理解する		講義・演習
11	アセスメントと情報収集		情報収集から生活課題を明確にすることを理解する		講義・演習
12	アセスメントと情報収集		情報収集から生活課題を明確にすることを理解する		講義・演習
13	情報収集の方法 ICF モデルの活用		情報収集の方法を考える		講義・演習
14	情報収集の方法 ICF モデルの活用		ICF を理解する		講義・演習
15	解釈・関連付け・統合化とは		意図的な観察により利用者の全体像をとらえる。		講義・演習
16	解釈・関連付け・統合化に必要な姿勢		介護福祉の理念から見た情報収集の必要性		講義・演習
17	アセスメントの視点		生活像を組み立てる 3 つの視点を理解する		講義・演習
18	解釈・関連付け・統合化のトレーニング		生活像を組み立てる 3 つの視点と ICF モデルを活用した情報収集を考える		講義・演習

コマ数	授業のテーマ	授業の内容	授業方法
19	生活課題の明確化	アセスメントの3つの視点から、利用者の生活課題の明確化を行うことを考える。	講義・演習
20	生活課題の明確化		講義・演習
21	介護計画とは	思考過程を書式に表す重要性を理解する	講義・演習
22	介護目標の設定	介護目標の設定と目標達成のための具体的支援内容、支援方法	講義・演習
23	具体的な支援内容・支援方法の決定	「具体的」な支援とは何かをについて考える	講義・演習
24	具体的な支援内容・支援方法の決定	統合モデルについて理解する	講義・演習
25	介護の実施とは	統一したケア、課題解決に向けた効果的な観察と経過の共有の方法を考える	講義・演習
26	実施における留意点	介護計画を共有する重要性を理解する	講義・演習
27	実施の記録	記録の種類と目的を理解する	講義・演習
28	評価の意義と目的	介護目標が達成されているとはどういうことかを考える	講義・演習
29	評価の内容と方法	評価における留意点を理解する	講義・演習
30	まとめ・試験	筆記試験・まとめ	講義
※実習前等に必要な項目があれば随時加えていく（床上の移動・立ち上がり 等）			
【使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版		【単位認定の方法及び基準】 1.学則第 18 条 1 項(認定基準)に基づく 2.学則第 19 条 1 項・2 項(成績の評価と履修認定)に基づく 3.評価規定…優(A)100 点～80 点、良(B)79 点～70 点、可(C)69 点～60 点 4.レポート・筆記試験	
【参考文献】 新・介護福祉士養成講座「介護過程」 中央法規出版			

沖縄福祉保育専門学校

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護総合演習 I		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 介護実習 I (通所・入所) の教育効果を高めることを目的とする。また、専門科目で学んだ基本的な知識・技術を、実習を通じて適切に身につけることができるよう、実習生の基本姿勢 (マナー、学ぶ姿勢、生活支援技術に携わる姿勢、自己覚知の姿勢など) を育成していくことをねらいとする。					
〔授業全体の内容の概要〕 介護福祉士としての実務経験のある教員が、その経験を活かして、実習に臨むために備えること (利用者・事業所理解、記録の意義、実習生の姿勢など) を指導の基本とするとともに、生活支援技術等の演習で学んだことが具体的に実習において展開できるよう、学生の学習到達状況に応じた指導を行う。また、学生の興味関心や疑問・不安、実習で捉えた学び等にも焦点をあて、その共有から自己覚知や他者理解、多角的視点などの学びを導く。					
〔授業修了時の達成課題 (到達目標) 〕 1. 意欲的に実習に臨めるようになる。 2. 実習における自己の実践内容を分析・考察することができ、表明することができる。 3. 他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーを習得できる。 4. 利用者・事業所の生活像等の理解が図られ、かつ記録や生活支援技術の意義を捉えることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	介護総合演習・介護実習の意義と目的			・科目の意義と目的 (ねらい) ・ガイダンス	
2	介護実習 I (通所) の目的とねらいについて			・介護実習 I の目標・内容の確認 ・事業所が求める望ましい実習生の姿勢について	
3	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備			・実習事業所・利用者の理解 (根拠・サービスの意義等) ・事前訪問オリエンテーション実施要綱の配布と確認事項 ・提出物 (誓約書・健康診断書・個人調書等) の確認 ・訪問前電話連絡	
4	実習事前指導①			・事前訪問オリエンテーション後の共有と留意点の確認 ・実習簿の配布と記入要領について①	
5	実習事前指導②			・事前訪問オリエンテーション報告と共有 ・実習簿の記入要領について②	
6	実習事後指導 (通所) ①			・実習で捉えた学びの共有 ・実習記録の再確認・整備・修整①	
7	実習事後指導 (通所) ②			・実習記録の再確認・整備・修整② ・実習簿提出準備とお礼状の作成	
8	介護実習 I (入所) の目的とねらいについて			・実習事業所・利用者の理解 (根拠・サービスの意義・支援のあり方・多職種協働など)。	
9	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備			・介護実習 I (入所: 高齢者・障害者) の目標と課題の明確化、実習簿配布、実習計画の作成①。	
10	実習事前指導①			・実習簿の記入要領について・実習計画の作成②	
11	実習事前指導②			・実習簿の整備と事前訪問オリエンテーション提出物 (誓約書・健康診断書・個人調書等) 作成・実習計画の作成③ ・訪問前電話連絡	
12	実習事前指導③			・事前訪問オリエンテーション報告と共有 ・実習簿の記入要領について①・反省会運営について	
13	実習事前指導④			・介護支援技術の段階的習得における留意点 ・実習簿の記入要領について	
14	実習事後指導 (入所) ①			・実習で捉えた学びの共有 ・実習記録の再確認・整備・修整①	
15	科目のまとめ			・実習全体を通じた自己評価・科目のまとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項 (認定基準) に基づく 2. 学則第 24 条 1 項 (成績の評価) に基づく 3. 評価規定: 優 (A) 100 点～80 点・良 (B) 79 点～70 点・可 (C) 69 点～60 点 4. 評価方法: 出席 45%、提出物 55% を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護総合演習 II		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 1年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 介護実習 I (介護事業所) の教育効果を高めることを目的とする。また、専門科目で学んだ基本的な知識・技術を、実習を通じて適切に身につけることができるよう、実習生の基本姿勢(マナー、学ぶ姿勢、生活支援技術に携わる姿勢、自己覚知の姿勢など)を育成していくことをねらいとする。					
〔授業全体の内容の概要〕 実習に臨むために備えること(利用者・事業所理解、記録の意義、実習生の姿勢など)を指導の基本とするとともに、生活支援技術等の演習で学んだことが具体的に実習において展開できるよう、学生の学習到達状況に応じた指導を行う。また、学生の興味関心や疑問・不安、実習で捉えた学び等にも焦点をあて、その共有から自己覚知や他者理解、多角的視点などの学びを導く。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 実地学習の成果を前向きに捉え、次回実習及び就職に向けて意欲的になっている。 2. 介護事業所の専門性や地域における役割を理解している。 3. 認知症高齢者の個別ケア展開を通じて、介護過程の展開をイメージできている。 4. 様々な利用者へ対応する介護福祉士の生活支援能力を捉えることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	介護総合演習・介護実習の意義と目的			・科目の意義と目的(ねらい)・ガイダンス	
2	介護実習 I -③ (事業所) の目的とねらいについて			・介護実習 I の目標・内容の確認 ・事業所が求める望ましい実習生の姿勢について	
3	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備			・実習事業所・利用者の理解(根拠・サービスの意義等)	
4				・事前訪問オリエンテーション実施要綱の配布と確認事項	
5				・提出物(誓約書・健康診断書・個人調書等)の確認	
6				・訪問前電話連絡 ・実習簿の配布と記入要領について① ・介護実習 I (事業所) の目標と課題の明確化 ・介護事業所の専門性や地域における役割	
7	2 年生実習報告会への参加			・介護実習 I での学び(意義)をイメージする	
8				・先輩の発表から次年度への参考を考える ・先輩の発表に対して理解や疑問点を持ち表現(記録)する	
9	実習先事前訪問 (各種介護事業所) からのまなび			・事前訪問オリエンテーション後の共有と留意点の確認 ・実習簿の記入要領について②	
10	実習事前指導①			・実習簿の記入要領について③ ・ケース対応事例の考え方と記入要領について	
11	実習事前指導②			・実習に意欲的に臨むために「出発式」の開催	
12	実習事前指導③			・実習で捉えた学びの共有 ・実習記録の再確認・整備・修整 ・実習簿提出準備とお礼状の作成	
13	実習事後指導①				
14	実習事後指導②				
15	科目のまとめ			・実習全体を通した自己評価・科目のまとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート等提出物	
〔参考文献〕 自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護実習Ⅰ①(通所介護)		〔授業の種類〕 実習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 5日間		〔時間数〕(単位数) 40時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 学生は、学習の初期段階であり当然ながら未熟な現状である。通所介護実習を早期に設定した理由として、①利用者との関わりを通して「人を支えていくこと」の喜びを感じること、②介護職務の醍醐味や楽しさ、現場で活躍する介護福祉士の活気や熱意を感じること、③利用者の状態に応じた基本的な日中支援の介護技術を体験することなど、2年間の学習に意欲的に臨むための「導入」となる実習としたい。あわせて、介護が必要な方が地域で暮らし続けること、家から出て社会とつながる意義を学ぶことに加え、ご家族など自宅で介護されている方のレスパイトケアの意義や、通所介護サービスの必要性、介護現場が果たしている役割を学ぶ実習としたい。					
〔授業全体の内容の概要〕 通所介護事業所の実践現場を体験し、事業所の機能や利用者サービスにおける介護福祉士の基本的な姿勢やケアを学ぶ。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①通所介護サービスの目的、役割を理解する ②地域に暮らす利用者の特徴、その生活を理解する ③通所介護サービスにおける介護福祉士の役割について理解する ④多職種、家族との連携について学ぶ ⑤生活支援の補助を体験する					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:実習態度、専門的実践能力、実習記録、レポート等提出物を総合的に評価する。	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護実習Ⅰ②(入所施設)		〔授業の種類〕 実習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 15日間(5日×3施設)		〔時間数〕(単位数) 120時間(3単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 利用者とのふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズと介護の機能について学び、指導の下で利用者の日常生活支援を体験する。さらに、施設の概要や理念、介護福祉士の役割について学び、利用者の生活の場としての施設について理解を深める。自分自身の課題も含め目標とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 実習施設・事業所等の実際を体験し、施設の機能や利用者サービスの基本的なケアを学ぶ。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①施設の理念・目的を知る ②コミュニケーション技術を学ぶ ③利用者の生活を理解する ④利用者の障害を理解する ⑤基本的介護・支援技術を学ぶ					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:実習態度、専門的実践能力、実習記録、レポート等提出物を総合的に評価する。	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護実習Ⅰ③(介護事業所)		〔授業の種類〕 実習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 11日間(5日・5日・2日)		〔時間数〕(単位数) 96時間(3単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 地域生活における多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、利用者・家族・地域との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の理解、地域で生活する利用者への生活支援技術を習得する。					
〔授業全体の内容の概要〕 1) 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある方が、施設等の利用に際しても、その人らしさを継続させながら生活する状況について理解し、そのために必要な個別ケアの実践の重要性を学習する。 2) 基本的な生活支援技術を実践し、認知症等の対応に困難性を持つ利用者への援助能力を高めるなど、利用者の心身の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。 3) 実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護を行う上で必要な他職種の役割を学ぶ事で、生活支援チームの一員としての介護福祉士としての役割について理解する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕					
グループホーム(認知症対応型共同生活介護)		訪問介護		介護事業所(小規模多機能型、認知症対応型通所介護、生活介護事業所)	
①事業所の理念・目的を知る ②利用者に応じたコミュニケーション技法を学ぶ ③地域に暮らす利用者の特徴、その生活を理解する ④利用者の心身の状況に応じた生活支援を理解する ⑤利用者の社会とのかかわりについて学ぶ ⑥個別援助能力を高める(個別援助学習)		①訪問介護員の業務内容と役割を学ぶ ②利用者に応じたコミュニケーション技法を学ぶ ③多職種、家族との連携について学ぶ ④介護を担う家族を理解し、サービス利用者の生活環境を知る ⑤居宅における介護福祉士の役割について理解する		①施設の理念・目的を知る ②利用者に応じたコミュニケーション技法を学ぶ ③地域に暮らす利用者の特徴、その生活を理解する ④利用者の心身の状況に応じた生活支援を理解する ⑤利用者の社会とのかかわりについて学ぶ ⑥個別援助能力を高める(個別援助学習)	
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:実習態度、専門的実践能力、実習記録、レポート等提出物を総合的に評価する。		
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 発達と老化の理解 I		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲宗根 政貴	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 発達の見点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。また、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するため、サイクル各期における心身および社会的な特徴や発達課題等について理解を深める。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、発達と老化の基礎知識および疾病や健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎知識を概説する。備えるべき基本知識や専門用語を習得できるよう、定期確認レポート、グループダイナミクス等を活用し、授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 テキスト該当範囲の「発達と老化」など変化の特徴に関する基礎的知識・専門用語について理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション				
2	人間の成長と発達の基礎的知識①			成長発達の考え方、原則や法則について理解する。	
3	人間の成長と発達の基礎的知識②			成長・発達に影響する要因について学ぶ。	
4	人間の発達段階と発達課題①			発達理論について理解する。	
5	人間の発達段階と発達課題②			発達段階と発達理論について学ぶ。	
6	人間の発達段階と発達課題③			身体的な成長・発達について理解する。	
7	人間の発達段階と発達課題④			心理的機能の発達について理解する。	
8	人間の発達段階と発達課題⑤			社会的機能の発達について理解する①	
9	人間の発達段階と発達課題⑥			社会的機能の発達について理解する②	
10	老年期の特徴と発達課題①			老年期の定義について理解する。	
11	老年期の特徴と発達課題②			老化の特徴や老化学説について学ぶ。	
12	老年期の特徴と発達課題③			老年期の発達課題について理解する①	
13	老年期の特徴と発達課題④			老年期の発達課題について理解する②	
14	老年期の特徴と発達課題⑤			老年期をめぐる今日的課題について学ぶ。	
15	科目のまとめ				
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、課題レポート提出等を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 認知症の理解 I		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 神谷 進	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 認知症の定義や基礎事項の習得、認知症の方の心理面や不自由さを体験した上で、生活支援の基礎的理解のあり方を学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 認知症介護指導者、認知症ケアの実務経験のある教員が現場の経験を活かしながら、テキストと実践を結びつけて授業をする。 認知症とは何か？認知症の何が問題なのか？認知症の症状の中核症状、BPSDを理解する。その他、認知症の原因となる疾患や症状の特徴を学び、日常生活への影響を理解し支援の方法の基礎的理解について学ぶ。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①認知症の原因と症状(中核症状、BPSD)について理解できる。 ②認知症の症状が本人の不自由さ、不安につながっていることを理解できる。 ③認知機能の変化が生活に及ぼす影響について理解できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1～4	認知症の基礎的理解			・認知症の理解の講義全体像を説明する。(講義・演習) ・認知症のある高齢者の現状と今後(講義・演習) ・認知症の何が問題なのか？(演習) ・認知症とは何か？(講義・演習) ・認知症の定義 ・脳の仕組み(講義) ・認知症の人の心理(講義・演習)	
5 ↓ 12	認知症の人の症状・診断・治療・予防			・認知症の原因を理解する。(講義・演習) ・中核症状を理解する。(講義・演習) ・認知症に類似した症状を持つ疾病を学ぶ。 ・認知症の診断と重症度。 ・グループワークでの中核症状についての理解(演習) ・認知症がある事でどのような生活障害が出るのか(講義・演習) ・認知症の予防(講義・演習) ・認知症の治療薬、薬の使用についての理解(講義) ・若年認知症の人の生活の理解と支援	
11～12	認知症を取り巻く状況			・これまでの認知症の歴史について振り返り、これからどのように目指すのか(講義・演習) ・認知症ケアの理念と視点(講義・演習) ・認知症の当事者の視点について(講義・演習) ・認知機能の変化が本人の生活にどのような影響を及ぼすのか学ぶ。	
13～14	事例検討			・BPSD の発生の要因の原因を探る。(演習) ・グループワークを通して認知症の症状の理解を深める。(演習) ・BPSD は作られた障害であることを理解する。(講義・演習)	
	科目試験			科目試験	
15	認知症の理解 I の振り返り			これまでの授業についてグループワークで演習し振り返る。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験 70%、出席状況、授業態度 20%、提出物 10%	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 障害の理解 I		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 知念和紀・石川貴幸	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 障害の概念やその変遷、また障害の特性に応じた制度など、障害のある方の生活を支援する職種として、基盤となる知識や考え方を身につけていく					
〔授業全体の内容の概要〕 ・障害の概念、理念法からみた障害の捉え方、各制度における障害・障害者の定義を学習する ・様々な分野での実務経験を活かし、障害別の医学的基礎知識、特性に応じた支援を現場支援とも照らし合わせながら学習する					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 障害を取り巻く歴史的背景を理解したうえで、今日における障害の概念や理念を理解できる 2. 各種障害の種類や医学的基礎知識、種別による制度を学び、障害特性に応じた支援について理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	○シラバスの説明および科目概説			講義の進行方法や評価方法の説明。本科目で大事にしていきたい事などを伝える。学生の抱負等。	
2	○障害の概念:捉えかた、ICF、障害定義			障害の捉え方、医学・社会・統合モデルの説明。WHO提唱のICIDHからICFへの変遷、日本の障害者数、定義について。	
3	○障害福祉の基本概念			ノーマライゼーションの思想潮流の理解、リハビリテーション、インクルージョン、国際障害者年の理念について説明と理解	
4	○障害福祉の基本概念			エンパワメント、ストレングスモデル、権利条約、アドボカシーの概念や理念の説明と理解	
5	○障害福祉に関連する制度			障害保健福祉施策の歴史的変遷	
6	○障害福祉に関連する制度			障害者総合支援法の制度、サービス概要、障害者差別解消法	
7	○障害福祉に関連する制度			障害者虐待防止法、障害者の就労支援、成年後見制度について説明と理解 障害福祉制度と介護保険制度についての説明と理解	
8	○障害の別の基礎理解と特性に応じた支援 知的障害			障害の程度区分、主な原因について理解し、生活面に及ぼす影響について学び支援のあり方と留意点を学ぶ	
9	○障害の別の基礎理解と特性に応じた支援 精神障害			精神障害の種類やその特性を理解し、支援の留意点を理解するとともに、医療や福祉サービス等の社会資源について学ぶ	
10	○障害の別の基礎理解と特性に応じた支援 発達障害			発達障害の定義、原因と特性を理解すること、発達障害のある人の生活と支援について理解し、支援機関の連携について学ぶ	
11	○障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 難病			難病の定義と主な難病疾患の特徴、基礎知識を理解し、生活支援上の留意点を理解する	
12	○障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 高次脳機能障害			高次脳機能障害の定義や症状、主な原因について理解し、生活面に及ぼす影響について学び支援のあり方と留意点を学ぶ	
13	科目のまとめ			知識が習得できているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめ	
	科目筆記試験			知識が習得できているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめを行う。	
14	課外授業 現場で感じよう 障害の理解			これまで習ってきた知識を実際の現場を通して改めて確認、支援現場の実情や課題なども確認する	
15	課外授業 現場で感じよう 障害の理解			これまで習ってきた知識を実際の現場を通して改めて確認、支援現場の実情や課題なども確認する	
〔使用テキスト・参考文献〕 新・介護福祉士養成講座 14「障害の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:提出物(10%)、授業態度(20%)、出席率(20%)、筆記試験(50%)を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 「障害者白書」内閣府、新・介護福祉士養成講座「資料集」、「国民の福祉の動向」福祉新聞、地元新聞、視聴覚教材(パワーポイント、DVD)、その他					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 こころのしくみ		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、人間としての基本的欲求や生命維持のしくみについて概説する。基本知識や専門用語を習得できるよう、定期確認レポート、グループダイナミクス等を活用し、授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 テキスト該当範囲のこころのしくみに関する基礎的知識・専門用語について理解することができている。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			健康の定義について序章をベースに展開する。	
2	人間の欲求とは			マズロー「自己実現理論」から自己実現達成と自己欲求についての関連性を理解する。	
3	自己実現と尊厳			「アイデンティティ」を焦点に人間のライフステージと自己同一性の関連性を理解する。	
4	高齢者のための国連原則			高齢者社会における国際的な取り組みについて理解する。 ※高齢者のための国連原則	
5	こころのしくみの基礎①			こころとは何か？ 記憶とは何か？ 映像を見ての各自の思いをレポートにまとめる	
6					
7	こころのしくみの基礎②			思考とは何か？ 感情表出の原因は何か？ 映像を見て各自の気づき、想いについてレポートにまとめる	
8					
9	うつ病について			喪失感や不安からのうつ病の発生要因と症状について映像を見て各自の気づき、想いについてレポートについてまとめる。	
10					
11	認知症について			失行、失認等の認知症の中核症状、周辺症状について映像を見て各自の気づき、想いについてレポートにまとめる。	
12					
13	適応機制について			適応のしくみと適応機制について具体的に理解する。	
14	記憶のメカニズム			記憶について具体的に理解する。	
15	科目のまとめ			基礎知識が習得できているか振り返るとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、課題レポート提出等を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 からだのしくみ		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、人間のからだの基本的なしくみを、生活や介護実践(生活支援技術)と関連させながら概説する。また、基本知識や専門用語を習得できるよう、定期確認レポート、グループダイナミクス等を活用し、授業を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. テキスト該当範囲の「からだのしくみ」に関する基礎的知識・専門用語について理解することができている。 2. こころとからだの変化が生活や身じたくへ及ぼす影響について一部説明できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			学習オリエンテーション及び他領域との関連性について具体例を含め説明する。	
2	からだのしくみ			生命維持と恒常性のしくみについて解剖図を基に各臓器について学ぶ。	
3	脳神経のしくみ			12対の脳神経について理解する。運動性中枢、感覚性言語中枢、自律神経について理解する。	
4	骨・筋肉のしくみ			骨格、筋肉の部位やはたらきについて理解する。	
5	感覚器のしくみ			眼球、耳の各部位名称やはたらきについて理解する	
6	呼吸器、消化器のしくみ			各種部位の名称や働きについて理解する	
7	生殖器、内分泌のしくみ			各種部位の名称や働き、ホルモンの働きについて理解する	
8					
9	循環器のしくみ			各種部位の名称や働きについて理解する 血液のしくみとリンパとの関連性について理解する	
10					
11	からだの働きについて			関節稼動域、筋肉の役割、ボディメカニクスについて理解する。	
12					
13	身じたくに関連したしくみ			身じたくのしくみ。心身機能低下が身支度に及ぼす影響。変化の気づきと対応。	
14					
15	科目のまとめ			基礎知識が習得できているか振り返るとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 こころとからだのしくみ I		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 生活支援技術の根拠となる人体の基礎構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、人間の心身の基本的なしくみ、利用者の移動、食事、入浴等、生活を支える介護実践(生活支援技術)と関連させながら概説する。また、実際の援助場面をイメージできるよう演習等を織り交ぜながら展開していく。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 身じたくに関連したこころとからだのしくみが理解できる。 2. 食事に関連したこころとからだのしくみが理解できる。注意点をあげられる。 3. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみが理解できる。注意点をあげられる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	身じたくに関連したしくみ①			身じたくに関連したこころとからだの基礎知識を学ぶ。	
2	身じたくに関連したしくみ②			身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。	
3	身じたくに関連したしくみ③			機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響を学ぶ。	
4	身じたくに関連したしくみ④			身じたくの生活場面におけるこころとからだの変化を理解する。	
5	食事に関連したしくみ①			食事に関連したこころとからだの基礎知識を学ぶ。	
6	食事に関連したしくみ②			食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。	
7	食事に関連したしくみ③			機能の低下・障害が及ぼす食事への影響を学ぶ。	
8	食事に関連したしくみ④			食事の生活場面におけるこころとからだの変化、医療職との連携を理解する。	
9	食事に関連したしくみ⑤				
10	入浴・清潔保持に関連したしくみ①			入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識を学ぶ。	
11	入浴・清潔保持に関連したしくみ②			清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する。	
12	入浴・清潔保持に関連したしくみ③			機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響を学ぶ。	
13	入浴・清潔保持に関連したしくみ④			入浴・清潔保持の生活場面におけるこころとからだの変化、医療職との連携を理解する。	
14	入浴・清潔保持に関連したしくみ⑤				
15	科目のまとめ			学習のまとめと総合評価を行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、課題レポート等提出物を総合的に評価する。	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 医療的ケアⅠ		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 田中 見栄晴	
〔授業の回数〕 10回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士が行う医療的ケアの範囲を理解し、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する 〔授業全体の内容の概要〕 ※実務経験のある教員による授業 授業は、医療的ケアを行うにあたり必要となる医療知識を講義形式で概説する。関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容を学習する。 〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1.介護福祉士が医療的ケアを行う背景について理解している。 2.安全にたんの吸引や経管栄養が提供できる重要性について理解している。 3.感染予防について理解している。 4.健康な状態について理解し、急変状態を捉えることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	・なぜ医療的ケアを学ぶのか			・個人の尊厳と自立、医療の倫理を学ぶ。 ・利用者や家族の気持ちを理解する。	
2	・医療的ケア実施の基礎知識 ・保険医療制度とチーム医療			・保健医療に関する制度・医療行為に関する法律を学ぶ。 ・チーム医療と介護職員との連携について理解する。	
3	・安全な療養生活①			・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について学ぶ。	
4	・安全な療養生活②			・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について学ぶ。	
5	・感染予防と清潔保持①			・感染予防・介護職員の感染予防について理解する。	
6	・感染予防と清潔保持②			・感染予防・介護職員の感染予防について理解する。	
7	・健康状態の把握①			・身体・精神の健康について理解する。	
8	・健康状態の把握②			・健康状態を知る項目(バイタルサインなど)を学ぶ。	
9	・健康状態の把握②			・急変状態について理解し、その対応方法を学ぶ。	
10	・科目のまとめ			・必要な基礎知識が理解できているか、定着しているか総合評価を行うとともに学習のまとめを行う。	
〔参考文献〕 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア 第2版」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席、授業態度 30%、筆記試験 70%	
〔備考〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活と健康科学		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 1、自己の「健康」「生活」について、振り返る機会とする。 2、今後の生活を営むにあたり、生活を科学的に見直す機会とする。 3、介護従事者として、心身の健康を考え豊かな生活習慣を身につける。					
〔授業全体の内容の概要〕 教員の講義を受ける他に、健康諸分野に従事する専門職からの講話及び体験演習。 調べ学習により自己を見つめ直す。 また、専門的な具体的学習に関しては、専門講師を招聘するオムニバス形式で運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 観て・聴いて・考え、今までの生活を振り返り、これからの生活を考えていける。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	生活と健康を考える			・生活とは何か	
2	健康を考えるための「排泄」について考える			・健康とは何か	
3	健康を考えるための「脚・足」について考える			□オムニバス式 ・正しい靴の選び方、履き方を知る ・足の爪切り等、フットケアについて知る	
4	健康を考えるための「眠」について考える			□オムニバス式 ・睡眠のメカニズムを知る。 ・快眠の環境を知る。 ・快眠の体づくりを知る	
5					
6					
7					
8					
9	健康を考えるための「食」について考える			□オムニバス式 ・食べたものが身体を作る。そのメカニズムを知る。 ・一日に必要な栄養の種類と量を知る。 ・過食、偏食、小食について知る。	
10					
11					
12					
13					
14	健康を考えるための「運動」について考える			・ボウリング体験	
15	科目のまとめ			・総合評価と学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 自主作成資料・参考資料				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席 45%、提出物 55%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 ハンドケア/フットケア		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 神谷 ゆかり	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 1年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 ハンドトリートメントとフットトリートメントの基礎を学び2年次に継続するケアセラピーの基本6手技を習得する					
〔授業全体の内容の概要〕 ■日本エステティック業協会認定講師かつ日本ケアセラピスト協会認定講師の資格を保有する講師が、指導を行う科目である。その専門的手法を取り入れた演習を通して、タッチセラピーに関する理論、トリートメント技術等を学習する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ハンドトリートメント・フットトリートメントの施術の際、基礎的な6手技が出来ている 施術のみならず対象者に対するホスピタリティーの心配りができているか確認する					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	タッチセラピー概論			タッチセラピーの理解	
2	ハンドトリートメント①			ハンドトリートメント実技 6手技の基礎	
3					
4	ハンドトリートメント②			ハンドトリートメント実技 6手技の確認 ト	
5					
6	ハンドトリートメント③			ハンドトリートメント実技 疾患のある場合	
7					
8	フットトリートメント①			フットトリートメント実技 6手技の基礎	
9					
10	フットトリートメント②			フットトリートメント実技 6手技の確認	
11	フットトリートメント③			フットトリートメント実技 疾患のある場合	
12	ハンド/フット①			ハンド/フットトリートメント実技 タイム計測	
13	ハンド/フット②			ハンド/フットトリートメント実技 手浴・足浴	
14					
15	実技のまとめ			基礎知識、手技が理解できているか振り返るとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 ケアセラピストハンドテキスト(グロリア21) ケアセラピストフットテキスト(グロリア21)				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、実技試験、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する	
〔参考文献〕 日本エステティック業協会テキスト 解剖生理学 皮膚科学					

	テーマ	授業の内容	実施日	活動内容等	自己評価
①	科目別エンターション	◆生活支援におけるアクティビティの定義・意義を学ぶ ◆久米1丁目敬老会参加に向けて積極的に参加出来る		PP活用し「生活支援」「アクティビティ」「自治会」「敬老会」について説明を受ける。久米1丁目敬老会参加に向けて役割確認。	
② ③ ⑦	伝統芸能の基礎学習①	◆琉舞「かぎやで風」を踊ろう。 大城美希子先生から伝授。「一人で踊れる」。 ■個人での準備：白の足袋 ■学校準備：扇子・CD＝教員室（日直準備・片付け）		1, 足袋・動きやすい服装で参加できた（毎回） 2, 借用：扇子（丁寧に取り扱い使用し返却できた） 3, 「他者を見なくても踊れる」取り組みができた	1, 2, 3,
	伝統芸能の基礎学習②	◆エイサーを踊ろう。 大城克也先生から伝授。「一人で踊れる」 ■学校準備：パーランク・パチ＝楽器庫 CD＝教員室（日直準備・片付け）		1, 動きやすい服装で参加できた（毎回） 2, 借用：パーランク・パチ（丁寧に取り扱い返却できた） 4, 「他者を見なくても踊れる」取り組みが出来た	1, 2, 3,
⑧ ⑩	プレゼント作成	◆久米1丁目 敬老会 対象者の 方々 ➡人数確認中		1, グループで作成できる（積極的に・協力して） 2, 受け取って嬉しいと感じるものを作成できた	1, 2,
⑪ ⑭	ほんばん 本番！！	2025 久米1丁目敬老会 本番です	10月25日	1, 進行（地域の方々が楽しめるように行動できた） 担当「 」 2, かぎやで風（他者を見ずに踊り、気持ちを伝えた） 3, エイサー（他者を見ずに踊り、気持ちを伝えた）	1, 2, 3,
⑮	振り返り	①～⑭までの活動を振り返り今後の課題を具体化する		※この用紙を提出	
最終 自己 評価	評価基準：A（優れている）B（普通）C（劣っている）D（とても劣っている） ①積極的行動した。アイデアや意見の提供・行動 : A B C D ②自己の役割について責任をもって行った : A B C D ③他のメンバー・チームを気にかけて行動した : A B C D		〈まとめ・実行した事、実行できなかった事、その他〉		